

第25回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会総会 議事録

日 時：令和3年11月18日（木）午後2時～3時

場 所：西尾市役所22AB会議室

出席者：（構 成 員）西尾市 近藤副市長

蒲郡市 大原副市長

愛知県都市・交通局交通対策課 山田課長

（オブザーバー）国土交通省中部運輸局鉄道部監理課 小川課長

名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部計画部 名倉部長

[発言要旨]

1 開会（会長：西尾市）

本日の総会は、令和2年度名鉄西尾・蒲郡線の概況、その他として「にしがま線げんき戦略Ⅱについて」現状報告を予定している。

2 報告事項

令和2年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について（名古屋鉄道株式会社）

資料1に基づいて報告

3 その他

にしがま線げんき戦略Ⅱに係る現状報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料2・3に基づいて概要と現状の報告

4 意見交換

(蒲郡市)

名鉄西尾・蒲郡線の運行について、名古屋鉄道様はもとより中部運輸局や愛知県を始めとした関係各位のご支援やご協力に感謝申し上げます。

名鉄様のご英断により実現した本年度から令和7年度までの運行継続については、高校進学を控えた子どもたちの選択肢を広げる等、大変意味深いものである。

にしがま線は地域素材がたくさんあるので、駅周辺だけでなく沿線地域一帯の観光活性化策の推進などで、点から面へ展開していけるようにしたい。皆様と協力しながら進めてまいりたい。

また、年明け1月4日からは、名鉄様、西尾市様との連携事業で「西尾と蒲郡のんびり鉄道の旅」と題した名鉄電車全線フリーきっぷで1日楽しめる企画を準備している。

今後も新たな支援策について積極的に検討していく。引き続きのご指導ご支援をお願いしたい。

(愛知県)

厳しい経営状況の中、公共交通の担い手として運行を続けている名鉄、運行支援を続けている両市に敬意を表したい。コロナ禍という経験のない状況下でも、関係者の積極的な利用促進策に心強く感じる。一緒になって取り組んでいければ。げんき戦略Ⅱは5年間の計画。コロナの先はわからないが、重要な5年間。現在、次期交通ビジョン策定に向けて有識者を交えて議論しており、事業者の意見も聞いている。年度末までには策定予定。

いろいろな形で一緒になって取り組んでいければと考えている。

(中部運輸局)

管内の事業者はほとんど打撃を受けている。宣言解除後は改善の方向。西尾・蒲郡線については、活性化協議会にも参加しており、関係者の連携によって踏みとどまっている。風向きが悪い中も頑張っていることに感謝。テレワーク、オンライン授業、社会環境変化が戻るかどうか懸念。自家用車で通勤、観光地に向かう。公共交通には逆風だが、出先機関にいたとき、別の会議に参加させていただいており、両市ともバスやタクシーの取組みが先進的と感じた。他のモードも含めて鉄道を盛り上げていければ。買い物通院、たくさんの方に利用していただければ。公共交通は安心だと利用者にも声を届けたい。いろんな方が連携して、持続可能な公共交通を維持できれば。運輸局としても補助メニューを紹介するなどできる限り支援していきたい。

(名古屋鉄道株式会社)

日頃から弊社及び名鉄グループの各事業にご理解・ご協力をいただき、また西尾・蒲郡線の活性化を目的とした様々な取組みを展開していただき、重ねて御礼申し上げます。なかでも10月10日のありがとう駅舎イベントには多くの来場者があり、大変ありがたい。この場をお借りして御礼申し上げます。

第2四半期決算では、鉄道事業において営業収入が前年比33.2%減少し、テレワークの定着等のコロナ影響による厳しい輸送状況が続いている。西尾・蒲郡線においても、昨年度の経常損失は8億円に迫る水準に達しており、弊社において徹底的な経営合理化を進め費用削減に努めているものの、一事業者の自助努力だけで路線を存続させていくことは大変厳しい状況である。については、沿線の皆さまと強力で連携し、早急に西尾・蒲郡線の利便性向上や観光推進に取り組むことで、鉄道利用者数の増加を図っていききたい。また、この先の少子高齢化による鉄道需要の先細りを想定し、どう対応していくか同時並行的に検討が必要であると考えている。沿線の皆さまにも、引き続きご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

(西尾市)

当該路線については、新型コロナウイルスの影響を受け、厳しい収支状況が続いているが、名古屋鉄道様におかれては、その運行に多方面からのご努力をいただき感謝。

県都市・交通局様からは、西尾・蒲郡線活性化協議会で取り組んでいる各種の誘客推進事業の展開にご支援いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

名鉄西尾・蒲郡線は西尾市の公共交通の基軸を成し、この路線の存続と沿線地域の発展は一体であり、欠かせない路線と認識。中部運輸局様におかれては、引き続き大局的な見地からのご指導ご鞭撻を賜りたい。

現在、新型コロナウイルスの感染は減少傾向となっており、日本全体が緩やかに経済活動を再開。第6波の危惧もあるが、名鉄グループ様による沿線観光活性化プロジェクトとして、EMOTION!が西尾を対象に展開され、大々的にPRしていただいている。駅にも大きくポスターが貼ってあり、大変ありがたい。今こそさらに一歩踏み込んだ取組みを名古屋鉄道様と一体となり進めていくべきと考えている。

また、今後は吉良地区への大規模工場進出を予定している。これを契機に最寄り駅である上横須賀駅のロータリー整備を検討し始めている。駅の利便性を高め、駅周辺の活性化を目指し、名鉄西尾・蒲郡線の存続を見据えた新たなまちづくりを進めていく。今後とも引き続き、ご出席の皆さまのお力添えをお願いしたい。

以上